

芸術公社プロデュース

レクチャーパフォーマンス・シリーズ

表現者が自らの言葉で観客に語りかける形式の上演作品「レクチャーパフォーマンス」を芸術公社がプロデュース。日本および世界の諸地域において独自の芸術理論や方法論を編み出している世界的なアーティストに制作を依頼、共に創作を行い、東京から世界に発信していきます。

その第一弾として、2016年2月 SHIBAURA HOUSE にて、南米コロンビアの演劇・思想シーンを牽引するマパ・テアトロのロルフ・アブデルハルデン、台湾を代表する映像作家チェン・ジエレンを招聘し、まだ誰も目撃したことのないレクチャーパフォーマンス作品を上演します。どうぞご注目ください！

Vol. 1 ロルフ・アブデルハルデン／マパ・テアトロ（コロンビア）

南米の演劇・思想シーンを牽引するマパ・テアトロ都市をめぐる演劇的アーカイブの試み



『廃墟の証言』

（英語上演、日本語字幕・通訳つき）

2016年2月4日（木）19時開演

2016年2月5日（金）19時開演

2016年2月6日（土）17時開演

コロンビアの首都、ボゴタ。世界で最も危険な都市の一つと言われるこの街で、長年にわたり演劇の可能性を問い続けてきたアーティスト、ロルフ・アブデルハルデンとマパ・テアトロ。彼らの思考は常に都市の現実から立ち上がり、演劇的な介入を通じてまた都市へと還元されていく。本作品の舞台は、ボゴタの中心部、エル・カルトゥーチョ（弾薬筒）と呼ばれた伝説的スラム街。麻薬取引や売春、殺人が横行する一帯は、一種の避難所としても機能していたが、都市整備によって劇的に解体される。4つのスクリーン上に投影される映像は目まぐるしく切り替わり、混沌とした無法地帯が浄化されていくさまとそこに生き続ける人々の表情を、一つの有機体のように浮かび上がらせる。2013年サンフランシスコ近代美術館での初演時は、ハイナー・ミュラーの『プロメテウスの解放』を下敷きに、開発計画を実行した前ボゴタ市長やエル・カルトゥーチョ最後の住人も出演した。今、オリンピックに向けてあちこちで巨大開発が進む東京に向けてアップデートされる東京バージョンは、私たちに何を突きつけるのだろうか。

Vol. 2 チェン・ジエレン（台湾）

台湾アートの先駆者、チェン・ジエレン最新作！歴史から逆照射される現在



レクチャーパフォーマンス版

『残響世界』（中国語・日本語上演）

2016年2月16日（火）19時開演

2016年2月17日（水）19時開演

2016年2月18日（木）19時開演

台湾アート界の先駆者、チェン・ジエレン（陳界仁）。大文字の歴史や社会が取りこぼす現実にはカメラを向け、壮大で静謐な映像フィクションに昇華させる手腕と長年の取組は、国内外で多くの尊敬と注目を集め続けている。本作品は、最新映像インスタレーション『残響世界』（2014）に自らの創作理念を交えながら、レクチャーパフォーマンスとして新たに発展させるもの。ハンセン病患者収容施設「楽生院（のちに楽生療養院と改称）」をめぐる個人の物語に、日本と台湾両国の歴史を重ね、現代の社会問題へと静かに斬り込む。歴史上の題材を過去だけではなく、現在そして未来に続く問いとして捉えるチェン。その眼差しは、「不潔者」とされたハンセン病患者だけでなく、政治に異議を唱えて「不穏者」とされ排除された人々にも向けられる。今回、日本での上演のために創作されるチェンの語りとは、私たちにどんな揺さぶりをかけるのだろうか。

★2公演とも、毎公演終演後にアーティストと観客の対話の場「コモンズ・トーク」を予定しています。

詳しい情報は、レクチャーパフォーマンス・シリーズ特設ウェブサイトをご覧ください <http://lecture-performance.com>

【お問い合わせ】特定非営利活動法人芸術公社 Arts Commons Tokyo（広報担当：平）

Tel: 080-3936-6676（公演専用番号）Mail: contact@artscommons.asia

主催：特定非営利活動法人 芸術公社 | 共催：東京藝術大学大学院映像研究科 桂英史研究室、geidaiRAM（平成27年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業） | 助成：アーツカウンシル東京（公益財団法人 東京都歴史文化財団）、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター | 特別協力：SHIBAURA HOUSE

【ステートメント】

どの時代にも、どの地域にも、固有の文脈があり、現実があります。アーティストは、彼／彼女にとっての「いま・ここ」を引き受け、そこから、目の前の観客だけでなく、遠くの誰か、未来の誰かに問いを投げかける存在です。芸術公社がプロデュースを手がけるレクチャーパフォーマンス・シリーズは、いま、私たちが最も声を聞きたいアーティストに、自らの言葉で観客に語りかける形式のパフォーマンスを委嘱するシリーズです。彼らは世界の第一線で活躍を続けるアーティストですが、長年にわたり自国の厳しい環境下で独自の方法論や美学を生み育んできました。彼らのレクチャーパフォーマンスは、彼らが日々向き合う社会の現実と自身の芸術理念を往復しながら、答えなき問いを私たちに投げかけます。それは、あらたな危機の予感に満ちたこの世界に、毒にもなれば薬にもなる、強烈な劇薬のようなものかもしれません。

キュレーター：大舘奈津子＋相馬千秋（芸術公社）

【公演詳細】

ロルフ・アブデルハルデン／マパ・テアトロ（コロンビア）



【プロフィール】1956年コロンビア生まれ。中南米を代表する演出家、アーティスト、演劇理論家。ジャック・ルコック演劇学校を経て1984年マパ・テアトロ（Mapa Teatro Laboratorio de Artistas / Mapa Teatro Laboratory of Artists）を姉妹とともに設立。2000年以降はボゴタのダウンタウンに同名の劇場も運営。ライブアートの理論と実践を基礎に、地域的・世界的な問いを多様なメディア（演劇、オペラ、映像、ラジオ、インスタレーション、パフォーマンス、都市プロジェクト）で表現し、独自の「地図作成」を続ける。アヴィニヨン演劇祭、ウィーン芸術週間など世界の主要フェスティバルで作品を多数上演、世界的に高い評価を得る。またマパ・テアトロにおいて国際芸術祭「Experimenta sur」を企画・運営し実験的な創作プラットフォームを組織するなど、中南米のアートシーンを牽引する存在となっている。ボゴダ在住。

『廃墟の証言』

（英語上演、日本語字幕・通訳つき）

2016年2月4日（木）19時開演

2016年2月5日（金）19時開演

2016年2月6日（土）17時開演

構成・演出：ハイディ・アブデルハルデン、
ロルフ・アブデルハルデン

出演：ロルフ・アブデルハルデン

映像・技術監督：ヒメナ・ヴァルガス

製作：マパ・テアトロ、コロンビア国立大学



チェン・ジエレン（台湾）



【プロフィール】1960年台湾生まれ。台湾を代表する映像作家、アーティスト。80年代の冷戦・戒厳令政権下の台湾で、当時の政治体制を挑発するようなゲリラスタイルのパフォーマンスや展覧会活動を展開。戒厳令解除後は数年間の沈黙期間を経て1996年より創作活動を再開、主に映像と写真を用いた作品を制作している。現代社会が抱える問題を、実在する場所や人物をリアルに撮影しつつ、フィクションとして制作する。また、実際の社会問題に対してアクションを起こすプロセスを作品に組み入れるなど、その活動は芸術活動にとどまらない。ヴェネツィア・ビエンナーレ（1999年及び2000年）、光州ビエンナーレ（2000年、特別賞受賞）、上海ビエンナーレ（2014年）など国際展に多数参加。主な個展はクイーンズ美術館（2008年）、台北市立美術館（2010年）など。台北在住。

レクチャーパフォーマンス版

『残響世界』（中国語・日本語上演）

2016年2月16日（火）19時開演

2016年2月17日（水）19時開演

2016年2月18日（木）19時開演

構成・演出・映像：チェン・ジエレン（陳界仁）

出演：チェン・ジエレン（陳界仁）ほか

アシスタント：ホー・フェイティン（何恵婷）

通訳・翻訳：池田リリィ茜藍

協力：樂生保留自救會 ゴン・ジョジュン（龔卓軍）

製作：芸術公社



【会場】

SHIBAURA HOUSE

住所：〒108-0023 東京都港区芝浦3-15-4 電話：03-5419-6446

アクセス：JR 田町駅芝浦口より徒歩7分、都営三田線・浅草線 三田駅 A4 出口より徒歩10分

芸術公社プロデュース レクチャーパフォーマンス・シリーズ

1月8日（金）チケット発売開始！ lecture-performance.peatix.com

一般前売 2,500 円（当日券＋500 円）

2 演目セット券 4,000 円（枚数限定）

全席自由席

※当日券は開演の 45 分前より、会場受付にて販売。

※2 演目セット券は数に限りがございますので、お早めにお買い求め下さい。

【レクチャーパフォーマンスとは？】

通常、滅多に自分の作品には登場しない演出家や映像作家たち。彼らが敢えて舞台に立ち、観客に直接語りかけるのが「レクチャーパフォーマンス」と言われる形式です。アーティストが自らの個人史や芸術実践と社会の関係を分析的に語るものから、大胆に映像やフィクションを交えた舞台作品に発展するものなど形態は様々。そこに共通するのは、アーティストの思想や手法、社会課題へのアプローチが、「語り」の中に強く立ち現れてくる点と言えるでしょう。本シリーズは日本で初めて、レクチャーパフォーマンスを特集するものです。レクチャーパフォーマンスの来るべき可能性を探求するために、国内外のアーティストに創作を委嘱、ともに創作し、世界に向けて発信します。

* コモンズ・トークとは？

パフォーマンスのテーマに即し、アートと社会の両面から知見を共有するためのトークです。2公演とも、毎公演終演後にアーティスト、ゲスト、観客がドリンクを片手に対話を行います。各回のトークゲストについては、ウェブサイトをご確認ください。

<http://lecture-performance.com/>

関連企画：映像上映「残響世界」

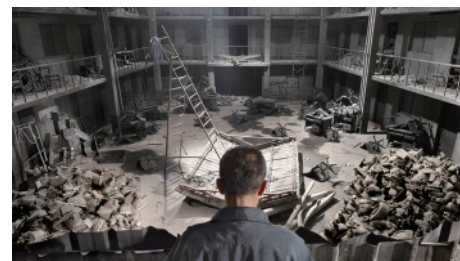
映像上映「残響世界」（2014、104 分）シングルスクリーン

2016 年 2 月 12 日（金）-26 日（金）

連日 11 時、13 時、15 時、17 時より上映 無料／予約不要

会場：台北駐日経済文化代表処台湾文化センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-12 虎ノ門ビル 2 階 電話：03-6206-6180



1930 年、日本の植民地統治時代に、台湾総督府が設立したハンセン病患者収容施設「楽生院」をめぐる映像作品。初上映は 4 つの章を療養院の屋外 4 箇所ですべて上映し、観客が楽生療養院の敷地を歩きまわり患者とともに作品を鑑賞する、一種の社会関与型アート・プロジェクトとしても大きな話題を呼んだ。今回上映されるのは、4 つの章をひとつにまとめたシングルスクリーンバージョンとなる。レクチャーパフォーマンスの前に鑑賞するか後に鑑賞するかは観客の判断に委ねられる。

詳しい情報は、レクチャーパフォーマンス・シリーズ特設ウェブサイトをご覧ください <http://lecture-performance.com>

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人芸術公社 Arts Commons Tokyo（広報担当：平）

Tel: 080-3936-6676（公演専用番号） Mail: contact@artscommons.asia

主催：特定非営利活動法人 芸術公社 | 共催：東京藝術大学大学院映像研究科 桂英史研究室、geidaiRAM（平成 27 年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業） | 助成：アーツカウンシル東京（公益財団法人 東京都歴史文化財団）、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター | 特別協力：SHIBAURA HOUSE

【STAFF】キュレーター：大舘奈津子＋相馬千秋（芸術公社） | 制作：戸田史子（芸術公社） | 技術アドバイザー：遠藤豊、中原楽（ルフトツーク）
音響：稲荷森健 | 宣伝美術：新保慶太＋新保美沙子（smbetsmb）